

徳之島町 町誌編さん だより

(徳之島町内全戸配布)

第8号

2020. 02. 10



地域に根差した町史を！

徳之島町誌近世部会 部会長

ふかざわあきと
深澤 秋人 (沖縄国際大学教授)

私は、沖縄国際大学で教員をしている深澤秋人と申します。東京都立川市の出身です。このたび、新たに刊行が予定される『徳之島町史』に執筆する側として関わることになりました。よろしくお願いいたします。

現在は、近世琉球の歴史を研究していますが、30年前の大学生の頃は日本古代史のゼミに所属し、卒業論文のテーマは奈良時代の南島でした。はじめて大学の教壇に立った時から、初心を忘れず、『続日本紀』にみえる奄美諸島の記事を紹介しています。しかし、東京や鹿児島からの船便で何回か亀徳港に停泊したことはあっても、上陸したことはありませんでした。

昨年1月の編集委員会ではじめて徳之島を訪れ、亀津に向かう途中の海岸線から請島と与路島がはっきりと見えたことにインパクトを受けました。沖縄島と奄美諸島を移動した船やヒトに関心を持ち、関係する史料を読んで来ましたが、文字を追うだけでは得られない迫力がありました。9月には近世部会委員5名が徳之島に集まり、巡見を実施し、『徳之島町史』通史編の項目(目次)や執筆箇所を決めることができました。

これまでは、琉球側の史料から徳之島をはじめとする奄美諸島の記録を見つけようとしていましたが、地域に根ざした町史とするためには、徳之島町域に伝わる史料を丹念に読み込む必要があると強く感じています。

つきましては、身近に、くずし字(という字体があります)のため何が書いてあるのかわからない古い手紙のようなものや帳簿類などはございませんでしょうか。状態がよくななくても断片でもかまいません。お心当たりの方は、裏面の徳之島町誌編纂室までご一報いただければ幸いです。町史刊行へのご協力のほどなにとぞよろしくお願い申し上げます。(2019年12月24日記)

各集落の聞き取り調査を実施しています！



金見集落 《貴重な情報やお話をありがとうございました》

徳之島町誌編さん審議会委員の委嘱

欠員となっていた委員を次の方にお願ひしました。

新任 大河平才毅（徳之島町教育委員）

町誌編さん事業日誌（抄）

年	月 日	内 容
令和元年	9月15日	近世部会会議開催
	11月7日	第2回町誌編纂審議会開催

町誌編さん事業予定

年	月 日	内 容
令和2年	2月中旬	徳之島町誌叢書（2）刊行予定 （徳之島町域「農村調査」報告集）

第2回編纂審議会



名誉町民 龍野定一先生

生誕130年展



名誉町民 龍野 定一先生のこと

このたび名誉町民の龍野定一先生生誕130年展にあたり、町誌編さん資料収集の一環として先生に関する多くの資料が収集できました。龍野先生のご人徳がうかがえるお言葉を紹介してみます。

①「私は人の値打ちというものは大臣になったとか知事や学校長など、何々になったからというものではなく、その人がどんなことをしたかということで決まるものだと考えています。それで私的生活を最少にして、公的生活を最大にし、物質的生活を最低にして精神的生活を最高にしたいと努めております。つまり私の家庭生活はできるだけつましく小さくして、社会のためにはできるだけ大きく働きたいと考え、衣食住はじめ物質的な生活はできるだけ儉約し質素にして、精神的な生活を豊かにしたいと考え努めており、これが私の両親の教えであり、また、亀津断髪精神で現代に生きる道だと考え信じております。」

『郷土の先輩』（徳之島防犯連絡協議会発行、昭和45年3月）より

②「真の教育はよろしく無処罰無試験を実施して、この世にすべての対立をなくし、競わず争わず、師弟学友すべてが親しみ励ましあい、援け合って学び進み、おのおのその個性により天分を発揮し、才能をみがいて各自の道を歩み、その志を成し処をえて一人の落伍する者もなく、すべての人を平和幸福にすることに努べきである。」 著書『厳訓無処罰の教育』（昭和41年）より

※ お手元に古写真や古文書等がありましたら、町誌編さん室へご連絡ください。

〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 2918

徳之島町生涯学習センター3階（徳之島町郷土資料館内）電話番号：0997-82-2908

徳之島町誌編纂室

本紙編集担当：岩下 洋一

※ 徳之島町役場では、条例等の法令名や、事業名・部署名については「編纂（へんさん）」の表記を使用しています。本紙では、発行元名を除いて、町民への広報としての役割から「編さん」の表記で統一しています。ご了承ください。

※ 町誌編纂事業は、ふるさと納税の一部を活用しています。